

国立大学法人総合研究大学院大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

総合研究大学院大学は、人文・理工にわたる多数の基礎学術分野につき、大学共同利用機関法人等が各地に設置する大学の共同利用の研究所その他の機関において、各施設の研究環境を最大限に生かした博士課程教育を総合的に統括実施し、学融合による新学問分野の創出・発展を図りつつ、国際的に通用する高度の研究的資質とともに広い視野を備えた人材の育成を目指している。第2期中期目標期間においては、学問分野にとらわれない専門性を超えた総合的な教育研究を行い、創造性豊かな研究者を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、新入生を対象としたフレッシュマンコースの実施準備や全学開放の専門基礎精選講義の充実等による課程制大学院の実質化に向けた取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

全専攻で入学定員の検証を行い、一部の専攻においては入学定員の改訂を決定しているほか、3年次進級判定や研究計画書審査等の博士学位取得に至るまでのロードマップの明確化・授業科目の構造化を図るとともに、専攻・研究科を横断する「脳科学」「統合生命」「物理科学」等の特別教育プログラムを実施するなど、組織的なコースワークと研究指導による大学院教育の機能強化に向けた取組を推進している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を十分に実施している」認められるほか、平成24年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていることによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 各基盤機関の広報担当者等と、広報連絡会を通じて相互の連携を行い、葉山本部を中心に各基盤機関で開催される一般公開や講演会等のイベント情報や、特色ある教育・研究活動及び研究成果について積極的に情報収集を行い、月に1回発行する学内報「総研大ニューズレター」や大学ウェブサイトにて随時情報掲載を行っているほか、大学ウェブサイトの閲覧性を向上させるため、コンテンツメニューの階層整理等のリニューアルを実施している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 幅広い視野と汎用力を涵養する総合教育プログラムの一環として、新入生全員を対象としたフレッシュマンコースを平成26年度から開始することとしているほか、隣接分野における幅広い学識を修得させるため、「進化という概念」、「論理学基礎」、「統計科学基礎」等、全学開放の専門基礎科目を集中講義・演習で行う専門基礎精選講義と

して、試行実施している。

- 総合研究大学院大学の創設理念のひとつである「学問の総合化」を踏まえ、事物・事象の起源の問題について文系と理系の知の交流を生かした幅広い視点から議論する25周年記念事業「はじまりシンポジウム」を開催（参加者275名）するとともに、参加者からのシンポジウムの成果について広く共有すべきとの声を踏まえ、内容を冊子に取りまとめ、頒布することとしている。